2022年度第２回愛知芸術文化センター運営会議図書館専門委員会会議録

１　日　時　　2023年２月１日（水）午後１時45分から午後３時まで
２　会　場　　愛知県図書館　５階　大会議室
３　出席者　　委員７名（上野委員、宇都宮委員、神谷委員、齋藤委員、中井委員、西川委員、廣田委員）、平松館長、小野田副館長、近藤資料支援課長、各グループ班長８名、文化芸術課職員１名、その他県図書館職員（事務局）３名
４　傍聴者　　なし
５　取　材　　なし
６　発言要旨　以下のとおり

【開会】

平松館長
　本日の図書館専門委員会では、次期「愛知県図書館の基本的な運営方針」についてを議題とさせていただく。昨年６月の図書館専門委員会で骨子案をご承認いただいた、次期「愛知県図書館の基本的な運営方針」の策定については、委員の皆様の意見を踏まえるとともに、県内市町村立図書館にも広く意見を伺いながら、成案の策定に向けて館内で議論を続けてきた。
　このたび、今後５年間の新しい運営方針である「第二期愛知県図書館の基本的な運営方針」の案を作成し、図書館専門委員会に諮る次第である。それぞれの立場から忌憚のない意見をお願いしたい。

【議題１　次期「愛知県図書館の基本的な運営方針」について】
　資料に基づき、次期「愛知県図書館の基本的な運営方針」について説明（副館長）。

宇都宮委員長
　欠席委員の意見を事務局より報告いただきたい。

小野田副館長
　山脇委員から「県立学校等との連携」本文について、「修学旅行の事前学習やテーマを決めた調べ学習の際に」という文言を「修学旅行の事前学習やテーマを決めた調べ学習を始めとした探究活動の際に」に修正するという提案をいただいた。理由は、現在実施されている新学習指導要領では探究活動の充実が求められているためである。参考資料として、高等学校学習指導要領（平成30年度告示）の該当箇所を示していただいている。
　また、渡辺委員から、数値目標のうち企画展示・イベントの実施回数について意見をいただいた。「ほどんどの項目で、現状を少し上回る程度の目標にとどまっている中、特にイベント実施に向けた積極的な姿勢を評価する。ただ、展示と

イベントを合わせた回数は100回で、2014年度の水準にも達していない。イベントに限っては現状から倍増を目指しているが、主にどのような内容を考えているのか。また、来館、オンラインともに参加を促すための働きかけは、どのような手法になるのか。」以上の意見と質問をいただいた。

宇都宮委員長
　これらの質問については、後ほど回答をいただく。まずは、欠席委員の意見も踏まえ、皆様からの御意見、御質問をお願いしたい。

上野委員
　数値目標について、第一期運営方針では定めていなかったのか。

小野田副館長
　第一期運営方針では、数値目標について本文中では示していない。前半５年、後半５年の行動計画の中で示している。

上野委員
　今回、削除した項目もあると思うが、その理由の説明が示してあるとよい。

小野田副館長
　削除した項目の説明については、通常、他のプラン等でも記載していないと思われる。６月の専門委員会で現在の数値目標について御説明させていただいたが、その後、第二期運営方針の検討を行う中で、新しい内容に相応しい数値目標を設定したものである。

廣田委員
　館内スペースの有効活用について、ゾーニングを検討することは、県図書館がサードプレイスとしての機能を果たすために良いことだと思う。ゾーニングの具体例として挙げられている「コワーキングスペース」「ラーニングコモンズ」のような場づくりについては、建物自体のスペースも限られている中、具体的にはどのような配置やバランスを考えているのか。来館者アンケートの結果等からも、既存のスペースを満足して活用している利用者もかなりいると思われる。その人々の要求を維持しつつ新しいゾーンを作るのは大変であり、優先順位をつけて実行すべきである。「ラーニングコモンズ」は大学内で充実しており、「コワーキングスペース」を優先して配置した方がよいと思う。

企画グループ課長補佐
　Yotteko を活かしたいと考えている。施設の改修については未定である。

平松館長
　「コワーキングスペース」「ラーニングコモンズ」については、５階のスペースを有効活用したい。有償にするのか否か、電源などの設備の予算化など検討すべき課題もあるので、活用方法については今後５年間で検討していく。

西川委員
　高校生や大学生がグループで使っている様子はどれくらい見られるのか。

企画グループ課長補佐
　現在、コロナ対策でグループでの座席の使用を中止しているが、今後、再開していきたい。コロナ拡大前は、学生がグループで使っている様子を目にしていた。

西川委員
　グループ席が再開した折には、高校生や大学生のグループ学習と県図書館が実施する新たな取組が結びつくとよい。

中井委員
　１年ほど休館して改修を行い、書架を減らして、ラーニングコモンズとした図書館もある。上手に改修してスペースを有効活用することは可能だが、それには長期間休館する必要がある。ただし、県立図書館が長期間休館するのは現実的ではない。
　県立図書館の役割、魅力を改めて考えてみると、それは本がたくさんあることだと言える。非来館サービス、ＤＸもいいが、来館の付加価値について考えることも大切である。来館の付加価値というのは、「資料が豊富にあること」と、「人が集い、ここでしかできないことが、できること」である。Yotteko はグループで使うことができ、人が集ってここでしかできないことをするための、象徴的な空間である。「見せ場」をつくり、来館することに関する付加価値を大切にして欲しい。長期的な視点で考えてもらいたい。

宇都宮委員長
　県図書館には、階層ごとの役割があるが、館全体としての付加価値は大切である。

齋藤委員
　「見せる（魅せる）図書館としての広報活動の充実」の本文について、ＳＮＳの例示の後に「等」を入れると良い。広報のターゲットを広げる時、LINE や TikTok 等、他のＳＮＳも必要になってくる。高校や大学と一緒に、幅を広げた広報活動をするとよい。
　デジタル技術について、将来的にはメタバース（仮想空間）を使った非来館サービスについても考えてはどうか。メタバース図書館を作り、そこでの施設見学、レファレンス、本の貸出なども今後実現されるかもしれない。予算の問題もあるが、世の中の流れを注視し、長期的な視野を持って考えていく必要があると思う。

宇都宮委員長
　情報科学の大学等との連携を視野に入れると、具体的に進むのではないか。

小野田副館長
　ＳＮＳの例示については、御提案のようにTwitter,Facebook,YouTube「等」としたい。メタバースについては今後５年間では難しいと思うが、可能性については研究していきたい。

神谷委員
　数値目標の企画展示・イベントの実施回数について、イベント 50 回とあるが、オンラインイベントの回数は目標として作っているのか。

企画グループ課長補佐
　現段階では考えていないが、世の中の流れを見て考えたい。

神谷委員
　「すべての県民の『知りたい』に応える図書館」として、来館がかなわない方も参加できるイベントがあるとよい。
　市町村図書館での研修について、自身は学校での読み聞かせを再開しているが、しばらく賑わうことをしていなかったので、子供たちが参加型の本で声が出せないといった状況に直面している。アフターコロナでの読書活動について改めて勉強したいと考えている。そうした講座を検討してもらえるとよい。

宇都宮委員長
　イベントについて、渡辺委員の質問も併せて回答をお願いしたい。

企画グループ課長補佐
　展示については、場所・期間の双方を考慮すると、これ以上の増加は難しい。イベントについては、2019 年度まで毎年 30 回程度実施していた名画鑑賞会を復活させることが、換気設備事情により難しいと考えてイベント全体で 50 回とした。ただし、おはなし会などその他のイベントの開催数を 20 回程度増加することは可能なため、イベント 70 回、合計 120 回に目標を上方修正したい。
　イベント倍増については、現在休止しているYotteko で行うセミナーや子供向けの夏休みイベント、映画の上映会などを状況を見ながら増やしていく予定である。今年の「家康」など話題性があり興味を引き、気軽に参加したいと思っていただけるイベントを考えている。
　新聞に掲載された講演会については、参加者が多い傾向にあるので、継続的にマスコミへの情報提供を行っていきたい。メルマガやＳＮＳも積極的に活用して広報していきたい。

神谷委員
　たくさんの目標を設定されているので、バランスを取り、実現可能なラインで実施して欲しい。図書館等の施設は、来館の付加価値が高い場所である。オンラインでの周知とともに、各所にチラシを配布するなどして来館を促していただきたい。

中井委員
　イベントはすべて図書館で準備しているのか。

企画グループ課長補佐
　美術館等と連携して行っているものもある。国連地域開発センター等、図書館とは一見関係ないところにも声をかけている。連携先でイベントの周知もしてもらっており、手ごたえを感じている。

中井委員
　イベントの準備は、準備する側にとって、よい勉強になる。夏休みなどに、地域の高校生や大学生等を巻き込んで子供のイベントを行ってもよいのではないか。学生は、準備しながら資料にふれることができる。そのことが、図書館にはこんな資料があるという気づきにつながる。色々な人を巻き込んでイベントを実施するとよい。

平松館長
　大切な視点を示していただきお礼申し上げる。県図書館と他機関との連携は非常に大切なことであると認識している。連携展示やイベントをきっかけに、今まで図書館に縁のなかった人たちにも来館し、本を借りてもらったりする効果を期待している。今年度は、航空ミュージアム、国連地域開発センター、ウィルあいち、あいち人権センター、朝日遺跡ミュージアム等と連携した。他機関との連携は、県図書館の展示を見た人が連携先に出向くこともあり、その反対もある。連携先とウィンウィンの関係を築くことができ、大変効果的である。今年度連携実施したＳＤＧｓの講演等は、これから時代を担う中高大生に聞いてもらいたいと感じた。先日、英語おはなし会を行ったが、このイベントは子供たちに外国文化を知ってもらうきっかけとなった。

西川委員
　資料の重点収集について、「健康・医療情報」に新型コロナウイルス感染症の資料を入れ後世に残して欲しい。悲惨なことや大変なことは、その時が過ぎると忘れやすいように思う。何れまたあるかもしれない次の感染症対策のために、基礎資料を残すことは大切である。地味な努力ではあるが、後世に残すべきだと思う。

平松館長
　新型コロナなどウイルス感染症は関心が高い分野である。県民のニーズに合ったものを重点的に集めたい。

廣田委員
　電子書籍の拡充について要望が高いようだ。電子書籍のコンテンツ数（2023 年 1 月現在で 5,870 冊）に対するアクセス件数（2022 年度上半期で月平均 5,541 件）を見ると、電子書籍の利用については、悪い数値ではないと思う。しかし、拡充への要望が高いということは、使う人はよく使っているのだが、意外と知られていない、ミスマッチがあるということかもしれない。コンテンツを増やすことも必要だが、広報がもっと必要なのではないか。知らないから使わない人、使い方が分からないため使っていない人もおり、使ってもらうためのＰＲやイベントを実施してはどうか。

近藤資料支援課長
　導入当初に比べて利用は落ち着いている。新たなコンテンツが入ると、Twitter で紹介している。電子書籍３周年などの広報をしていきたい。使い方講座は既に行っているが、年１回実施するようにしたい。

平松館長
　電子書籍の広報は館内で行うイベントなどで、リーフレットを配布するなど、広く広報していく。

宇都宮委員長
　山脇委員の提案についてはどうか。

広域グループ課長補佐
　学習指導要領に沿った御提案であり、提案通り修正させていただきたい。

宇都宮委員長
　議題１について、ＳＮＳの記述については、Twitter,Facebook,YouTube の文字の後に「等」を追加する。学校への資料貸出の記述については、「調べ学習の際に」を「調べ学習を始めとした探究活動の際に」に変更する。数値目標のうちイベントの実施回数については、イベント 50 回を 70 回に上方修正する。これらについては事務局に検討させ、細部は委員長に一任させていただくことでよろしいか。

【了承】

宇都宮委員長
　最後に「その他」に移らせていただく。委員の皆様には本日の議題以外の事で、何か御意見があればお願いしたい。

西川委員
　最近、書店は減っているが、私設図書館は増えている。有料でも、そこが良いという人が増えている。こうした状況を踏まえて、公立図書館の役割などについて皆さんの考えをおたずねしたい。

中井委員
　少ない会費で、自分のお気に入りの本を置くことができるという私設図書館がある。そこでは、その本を読んだ人に感想を書いてもらえる。自分のおすすめ本をみんなに広めることができ、本を中心としたコミュニティができていく参加型の図書館だということで利用がある。私設図書館の利用は、基本的に参加したいという思いがきっかけになることが多い。公立図書館の中にも、参加型コーナーを作っているユニークな図書館もある。しかし、公立図書館は、現在の利用者のためだけにあるわけではない。公立図書館には、今の人だけではなく、今後の人にも資料を残していく、地域の資料を残していくという役割がある。

廣田委員
　私設図書館と公立図書館は車の両輪のようなもの。私設図書館は個人の好みを特別扱いするが、公立図書館は公平かつ平等が原則で、個人の好みで本を集めない。公立図書館ではできない部分を私設図書館がカバーしているのではないかと思う。公立図書館は長期的に全体を見据えたサービスをし、役割分担をすればよい。

神谷委員
　YouTubeに本のリストを掲載してくださりお礼申し上げる。

宇都宮委員長
　本日は、多くの御意見ありがとうございました。皆様からの御協力により無事終了できたことに感謝を申し上げる。

平松館長
　皆様からいただいた貴重な御意見は、今後の当館の運営に反映させてまいりたい。今後もお気づきの点があれば御意見をいただきたい。

【閉会】